

県内復興・経済日誌（2022年8月）

1日

《「お試し移住村」でミスマッチ解消》

県は、浜通り、中通り、会津の各地方にモデル地域を設定し、移住希望者のニーズに応じたお試し移住の支援事業を始めた。各エリアに「村の案内人」を配置し、地域との交流を図りながら移住者と地域間のミスマッチ解消を目指す。

3日

《工場見学ランキング「リカちゃんキャッスル」2位》

旅行情報誌「じゃらん」を発行するリクルート（東京都）は、「童心にかえて楽しめそうな工場見学 TOP10」を発表し、小野町の「リカちゃんキャッスル」が2位に入った。調査はじゃらんがインターネットのアンケートで行い、47都道府県に住む20～40代の約1,000人から回答を得た。

5日

《「プライド便」で県内生産者を支援》

県は、オンラインストア大手3社で県産品を販売する「ふくしまプライド便」で「ふくしまプライド。生産者応援キャンペーン第1弾」を開始した。コロナ禍が長期化する中で肥料や資材高騰の影響を受けたり、降電被害に遭ったりした県内の生産者を支援する。

8日

《新設法人数5年ぶり増加》

東京商工リサーチ郡山支店が発表した新設法人動向調査によると、2021年における県内の新設法人は1,088社（前年比10.0%増）で、5年ぶりに増加に転じた。同支店は「コロナ禍が既存ビジネスモデルの変革を迫り、新たなビジネスが芽生えつつある。行政などの手厚い創業支援も法人新設増加につながった」とみている。

9日

《電気バス実証事業、郡山に30台導入》

みちのりホールディングス（東京都）と東京電力が記者会見し、両社が取り組む電気バスの効率的な運行システムの実証事業について発表した。多数のバスの運行計画を同時管理できるシステムを開発するほか、各車輛の充電タイミングを分散することで電力費用を抑制し経費削減につなげる。本県では郡山市の福島交通大槻営業所に計30台の電気バスが導入される。

17日

《本宮市内、定額タクシー「まちタク」実証運行開始》

公共交通の再編を進める本宮市地域公共交通活性化協議会は、市内で導入を検討している定額タクシーの実証運行を始めた。自宅と市内中心部の指定施設間をメーター運賃に応じた定額で利用できるタクシーで、中心市街地の利便性向上が期待される。

18日

《「全国燗酒コンテスト」県内2歳元の3銘柄が最高金賞受賞》

温めた日本酒の味を競う「全国燗酒コンテスト」の審査結果が発表され、県内から大和川酒造店（喜多方市）の「純米辛口 弥右衛門」、人気酒造（二本松市）の「人気一 純米吟醸クラシック」と「人気一 旨辛口クラシック」の2歳元3銘柄が最高金賞に選ばれた。

25日

《2021年県内観光客3,545万人》

県は、2021年県内観光客入り込み数が3,545万人だったと発表した。東日本大震災と東京電力福島第一原発事故が発生した2011年の3,521万人と同水準まで落ち込んだ。新型コロナウイルス感染拡大で2020年の3,619万人から、さらに74万人（2.0%）減少した。

30日

《双葉町の復興拠点避難解除》

政府は、東京電力福島第一原発事故に伴う帰還困難区域のうち、双葉町の特定復興再生拠点区域（復興拠点）の避難指示を解除した。原発事故から11年5カ月を経て、県内で唯一全町避難が続いていた町で居住が可能になり、全ての自治体で住民が暮らせるようになった。

31日

《太陽光メンテに特化、地元企業グループ発足》

電気設備工事のエディソン（郡山市）太陽光発電システムのACDC（伊達市）再エネ発電事業の福島発電（福島市）会津電力（喜多方市）の4社が、太陽光発電メンテナンス分野に特化したワーキンググループを発足させた。施工からパネル廃棄までの事業モデル構築や発電効率を高める新技術の開発、保守管理を担う人材育を行う。